

自治・共生・活力部会 審議状況

第2回	5月10日	(金)	開催
第3回	5月30日	(木)	開催
第4回	7月 8日	(月)	開催

(1) 区民と協働・協創する自治体

多様な人と人のつながり（まちのあり方）

発言内容

- ① 大学生はエネルギーがあるので、一緒に活動して相乗効果を生み出すことができると良い。
- ② 地域住民の地域への参加・協力意識、まとめる力が弱くなっている。
- ② 地域の活動に中学生が参加できなくなっている。（先生の土日勤務が困難）
- ② マンションの住民と町会・自治会がしっかりつながると良い。
- ③ 区民は個人ではつながっているが、団体同士があまりつながっていない。
- ③ 区内で活動している団体同士が、一緒に会議に参加するなど、もっと他の団体とつながる必要がある。
- ③ 特性を持った人や団体がお互いにつながるには、場をつくる必要がある。
- ④ 地域で共有できる地域資源がわかる地域資源のマップがあると良い。
- ④ 地域の意見をまとめるところから専門家や地域の人が携われると良い。
- ④ 地域のことを地域全体で考えられていると良い。

答申のイメージ

- ① 大学生が地域に関わり、まちに新たな活気を生み出している。
- ② 区民は、地域活動への参加等を通して、地域に積極的に協力している。
- ③ 個人や団体の垣根を越えた協力により、地域の問題が解決されている。
- ④ 地域では、多様な人材と資源を生かし、問題が解決されている。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 区民と行政が問題を共有する仕組みが必要である。問題を共有し発信することで、皆が解決の方法を考えるようになると良い。
- ① 区民と区が、課題解決のために、お互いに何をやったら良いか考える必要がある。
- ② 区民が地域活動を自発的に行うのはむずかしい。区民と区が関わる仕組みをつくり、それにより面白いことが起きると区民に伝えることで、区民の活動を引き出すことができると良い。
- ② 区民が何かやりたいと思った時に相談できる窓口があると良い。
- ③ 地域の団体などに所属していない区民が、やりたいことをできるよう、区から支援を受けることができると良い。
- ④ 若者や子育て世代、高齢者世代など、世代ごとまたは外国人で集まって、区政について意見を述べる機会があると良い。

答申のイメージ

- ① 地域の問題が共有され、多様な地域人材により解決されている。
- ② 誰もが、いつでも、気軽に、地域活動を始めることができる。
- ③ 区は、様々な区民の主体的な活動を支援している。
- ④ 多様な区民が、それぞれの属性に応じてつながり、区政への関心が相乗的に高まっている。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 区民が地域と関わるには、行動するきっかけや繋がるきっかけがほしい。SNSなどに困りごとを投稿すると、誰かが反応したりしてつながっていく事例がある。誰もが発信できて、誰もが見られる仕組みがあると良い。
- ① 地域のつながりを生む情報発信が地域で行われていると良い。

答申のイメージ

- ① 区民同士が自ら情報を発信し合うことで、地域のつながりが拡散し、新たな行動が生まれている。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 区職員が地域に出て区民と一緒に活動する、又は区内の団体をつないで協働を作り出せると良い。協創するという方針を区が明確にするべきである。
- ① 住民参加型ワークショップに積極的に取り組んで、住民の区政参加が進むと良い。
- ① 区職員と住民の距離が近くなると良い。
- ② 区の組織は、縦割りで、どこに相談していいのかわからない。
- ③ 区の情報発信力を強化してほしい。情報発信の手法を多様化してほしい。
- ③ 違いを持った人をつなげるには、情報発信が大切である。区から発信した情報の問合せ先がわかりやすいと良い。
- ④ タウンミーティングの意見をきちんと反映する仕組みを作る必要がある。

答申のイメージ

- ① 区職員は、自ら地域に出て、区民と協働し、地域課題を解決している。
- ② 区は、縦割りを解消したトータルなサポートを提供している。
- ③ 区は、区民の特性やニーズに応じて、多様な手法により情報を発信している。
- ④ 区民が区政に対して意見を述べる機会が保証され、区民の意見を踏まえて区政が運営されている。

(2) 違いを力に変える多様な連携

多様な人と人のつながり（まちのあり方）

発言内容

- ① 地域は、みんな違ってみんな良い。違うから中野に人が集まる。
- ① 外国の人が自分らしく生きるには、地域に違いを許容する寛容さが必要である。
- ① 自由に活動できると楽しく生きることができ、違いが生まれる。
- ② まちを小さいエリアで考え、このエリアをどう楽しくできるのか考えることで、まちの違いが生まれる。
- ③ 性に対する考え方も多様化しており、男女に分類されない第3のトイレもある。
- ④ 少数者が「少数者である」と感じないで暮らせるとよい。
- ④ 様々な背景を持つ人が住みやすいまちになると良い。
- ⑤ 外国の人たちとの交流があるとよい
- ⑤ 外国人が、身近な地域で日本語を学習する機会がある。

答申のイメージ

- ① 違いが集まり、生まれるまち。
- ② 地域住民の主体的な活動により、地域ごとの特色が生まれている。
- ③ 多様な性のあり方が受け入れられ、配慮されている。
- ④ 誰もが、互いの個性や人格を尊重されている。
- ⑤ 外国人は、言語の壁なく、気軽に地域と交流している。

区民と行政の協働

発言内容

- ① まちづくりは、整備されすぎると人が集まらない。活気が生まれるには、住民とともに作る雑多なエリアが必要である。
- ② 外国人が住み続けるには、子どもの教育や高齢者となった時の対応、地域コミュニティに入るための支援が必要である。

答申のイメージ

- ① 新しさと懐かしさが同居することで、活気が生まれている。
- ② 外国人が生涯を通じて住み続けられる環境が整っている。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 違う分野で活動している人が集まり、話をするすることで、力を発揮する。
- ① 行政に任せるだけではなく、区民や団体が自分たちでも行動することが大事である。
- ② 区の施設だけではなく、中野のまちなかでイベントが行われ、区民が日常的にイベントに参加できると良い。
- ② まちなかで行うイベントは、費用をかけずに仕組みをつくるのが大事である。費用をかけない方が、人が関わり継続性が高まる。
- ③ ハンディキャップのある人が、もっとまちに出られるようにすることが必要である。

答申のイメージ

- ① 違いを持つ人たちが集まることで、新たな力や行動が生まれている。
- ② 日常的に、まち全体を舞台とした多様な文化活動が、自主的・継続的に行われている。
- ③ 誰もが、困りごとなくまちに出ることができ、自ら世界を広げている。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 多様な団体を結びつける役割は、行政にしかできないことである。

答申のイメージ

- ① 区は、多様な団体を結びつける機能を果たし、新たな力を作り出している。

(3) 地域愛を育む人のつながり

多様な人と人のつながり（まちのあり方）

発言内容

- ① おすそ分けなどのご近所づきあいを促す方法があると良い。
- ① 海外では地域や仕事でホームパーティに積極的に誘われる。周りとの関わりが日常生活から生まれてくるのが大事である。
- ① 単身者やマンションの住民は地域のつながりが薄い。誰もが参加し楽しめる活動があると良い。
- ② 地域の見守りは、直接手助けできなくてもいろいろな人が、できる範囲でかわれるチャンネルがあると興味を持ってもらえる。
- ② すべての人が居合わせる会合だけでなく、オンラインでできる会合があると良い。
- ② 地域活動の組織を棚卸すると良い。組織が分かるとそれだけ会議が行われ、時間が必要になる。
- ③ あいさつがあふれるまちになると良い。
- ③ 安心して近所の人に頼みごとができるとうまい。

答申のイメージ

- ① 区民は、日常生活の中で地域と関わる様々な機会がある。
- ② 区民は、それぞれのライフスタイルに応じた多様な形で、地域に参加している。
- ③ まちは、ご近所同士のあいさつにあふれている。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 町会・自治会で活動している人が高齢化しており、若者に引き継いでもらいたい。
- ① 町会・自治会と区が協力して、地域活動の後継者を育成する必要がある。
- ① 区には若い人が多いが、区や地域とのつながりが弱い。
- ② 一人で居たいという個性を尊重しつつ、孤独にならないよう、町会・自治会や区民、民間団体が行う、気軽に参加できるイベントなど、地域とのつながりをつくる様々な仕掛けが必要である。

答申のイメージ

- ① 若者が地域活動に参加し、持続可能な地域社会が形成されている。
- ② 一人ひとりのライフスタイルが尊重されながら、誰もが地域で孤立せずに暮らしている。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 地域活動に関心のある人の中には、地域活動の具体的な一歩の踏み出し方が示され、背中を押す人がいると動く人がいる。
- ① グリーンバード（清掃ボランティア活動）のように、やること自体が楽しい、しっかりデザインされているなど、地域活動をカッコいい形に落とし込めれば広げることができるのではないか。
- ① 地域活動の入り口がたくさんあっても、入り口がみえないと入ることはできない。広報は、同じ内容のものであっても様々なツールで周知していく必要がある。
- ① 町会、自治会以外でも地域活動に参加できる場があると良い。
- ② 就業形態として、今後フルリモート、フルフレックスで働く人が増える。そのような人が働ける場所があると昼間人口が増える。
- ② 公共施設にワークスペースがあると若い人が集まり、何かが生まれるのではないか。

答申のイメージ

- ① 区民には、地域活動を始める様々なきっかけが用意されている。
- ② 区民は、多様な就業形態により、就業と地域活動を両立している。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 転入時に、地域に関する説明が無く、地域とつながりが持てなかったため地域の情報があると良い。
- ② 町会・自治会では、個人情報保護のため、こどもや見守りが必要な人など、住民とつながりきれていない状況がある。町会・自治会ではできないことは行政が担うべきところである。

答申のイメージ

- ① 区民は、中野に住み始めたときに地域に関する情報を入手し、地域につながるを持つ機会を与えられている。
- ② 地域の見守りが必要な区民は、プライバシーが適正に守られながら、安心して暮らしている。

(4) 区内経済活動の活性化

多様な人と人のつながり（まちのあり方）

発言内容

- ① 民間と民間の連携により、魅力的なサービスが行われ、人が集まると良い。
- ① 民間と地域の連携など、民間同士の連携を持続的に行うための仕組みが必要である。
- ① 経済団体が集まって福祉や子育て等の人と人のつながりを生むサービスができないか。
- ② 外国人の経済活動に対する支援を行い、外国人が仕事をしたいと思うまちになるとよい。

答申のイメージ

- ① 企業や団体同士の連携により、付加価値を高めたサービスが持続的に提供されている。
- ② 外国人が就労しやすいまちになっている。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 商店街は高齢者や子供の見守りなど多機能である。どのように商店街を振興させていくかは、特に中野区のような住宅が多いまちでは重要である。
- ① 商店街は多機能であるから、どの機能に特色を見出していかを戦略的に考えることができる。
- ① 商店街の考えを吸い上げて機能させるシステムがあると良い。
- ① 空き店舗を活用したコミュニティスペースがあると良い。
- ② まちの魅力が向上することで、転入者が増えると良い。

答申のイメージ

- ① 商店街は、商品の供給にとどまらず、地域の特色を生かしながら、コミュニティの場としての多彩な社会的役割を果たしている。
- ② まちの魅力が向上し、中野に住みたいと思う人が増えている。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 区内の事業所を増やすには、本社を置きたいと事業者が思うような特徴が必要である。
- ② 経済だけでなく、文化や地域など横串となるものがあると活性化するのもかもしれない。
- ③ ICTCO（イクトコ）も拠点を産業振興センターに移してほかの経済団体と意見交換できるようにしたら良い。
- ④ 個性のあるお店が商店街にあると良い。
- ④ 商店街のごちゃごちゃした感じが中野の魅力で、人を惹きつけるのではないか。

答申のイメージ

- ① 多様な事業者に、中野区が事業拠点として選択されている。
- ② 文化や地域の視点を入れた経済活性化の取り組みが行われている。
- ③ 様々な団体が一緒に区内経済の活性化に取り組んでいる。
- ④ 商店街には、魅力のある商店が集まり、まちに魅力と活気が生まれている。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 区は、ICTを重点施策として創業支援をしているが、既存の事業所の継続について支援を検討してもらいたい。若い人が中野で事業を継続したいと思えるようなまちづくりをしてもらいたい。
- ① 用途地域が変更になって事業所は建物の建替えできず、事業拠点を移すということがある。区は、用途地域の見直しを検討してもらいたい。
- ② 子育て世帯が増えることで、区内の需要が増え、区内経済が活性化する。
- ③ 民間と民間が連携し、効果を発揮するには、区がつなぎ役になると良い。

答申のイメージ

- ① 区内事業者が継続的に事業活動を行うことで、地域経済が活性化している。
- ② 区内には多くの子育て世帯が住み、需要が喚起されることで、区内経済が活性化されている。
- ③ 区は、多様な団体を結びつける機能を果たし、新たな力を作り出している。

(5) 身近にある文化・芸術

多様な人と人のつながり（まちのあり方）

発言内容

- ① 多様性を考える上で、文化は大きな影響力がある。中野には文化振興条例がない。中野だからできる文化事業をするため、指針が必要である。
- ① 文化・芸術振興には多大な費用がかかるように見えるが、積み上がれば費用を上回る効果がある。
- ② 障害者の作品制作に、デザイン事務所や区が関わることで、付加価値が生まれ、利益を出すことができ、障害者の工賃となると良い

答申のイメージ

- ① まちの持つ多様性が、文化活動を通じて区民に共有されている。
- ② 障害の有無にかかわらず、区民が持つ技能の価値が高まっている。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 区内では、プロによる活動、アマチュアによる活動、区民に教えている、人から習う、など様々な文化活動が行われている。それぞれの活動にあった行政との協働が必要である。
- ② 身近にある文化芸術は、立派なものでなくても良い。中野の文化芸術は、どのようなものなのか考える必要がある。
- ② 中野の飲み屋街も芸術と言えば芸術である。
- ② 中野には小さな劇団がたくさんある。その人たちを支える仕組みがあると良い。
- ② ごちゃごちゃしたものがたくさんあるおもしろさが、中野の特性のひとつである。

答申のイメージ

- ① 区民による多様な文化活動が、多様な協働により活発に行われている。
- ② 雑多な文化活動が、中野の魅力として発信されている。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 文化芸術は、若い人も学生も入ってきやすい入り口であり、公共性もある。
- ② 中野の文化は、ポップカルチャー寄りの特徴がある。
- ② 中野には、国の文化振興施策のジャンルに含まれない人がたくさん集まっている。その面白さをすくい上げる取り組みが必要である。
- ② 区内に、すでにいろいろなところにある文化の素材、種をどう効果的に集めていくかということが大事である。
- ③ 中野の伝統文化は、高い水準のものなので、もっと活用すべきである。
- ④ さまざまジャンルの団体がアートでつながり、一緒に活動すると活動範囲が広がるのではないか。

答申のイメージ

- ① 若者や学生が、文化・芸術活動をきっかけに地域と関わっている。
- ② ポップカルチャーなど、中野ならではの文化活動が活発に行われている。
- ③ 区の伝統文化が区民に継承されるとともに、広く区内外に発信されている。
- ④ 団体同士のジャンルを超えたつながりにより、新たな文化活動が始まっている。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 中野区らしい文化・芸術の拠点があると良い。その役割を誰に担わせるのか検討することも大切である。
- ② 外国人や体に不自由のある方にとって、身近にあるとは何なのかということを考えなければならない。
- ③ スポーツ・文化施設を充実するために、既存施設を活用してはどうか。
- ④ 音を出す、絵を描くことが自由に行える場所があると、文化のすそ野を広げることができる。

答申のイメージ

- ① 文化・芸術活動が拠点的に集約され、広く区内に発信されている。
- ② 障害の有無や国籍にかかわらず、あらゆる区民が文化・芸術に親しんでいる。
- ③ 多くの区民が身近な地域でスポーツ・文化活動をしている。
- ④ 気軽に表現活動を行う場所が整っている。